

## 理科教育国際セミナー

日時：平成 25 年 3 月 9 日 14:00－16:00

場所：広島大学大学院国際協力研究科大会議室

本年 3 月 9 日に広島大学大学院国際協力研究科の大会議室において、“Trend and Issues of Science Teacher Education in Indonesia” と題して国際セミナーをおこなった。このセミナーでは、インドネシア教育大学教授の Nuryabu Y. Rustman 教授にインドネシア共和国における理科の教員養成に関する動向、インドネシア教育省のスタッフである Abdul Ghafur 氏に現職教師トレーニングの動向について報告していただいた。まず、ルストマン教授においては、簡単に日本とインドネシアの教育制度を比較した後、カリキュラムの比較を行った。ここでは学制においてはいずれも 6－3－3 制が取られていることが示され、理科カリキュラムについてはインドネシアにおいては第 1 学年から第 3 学年まで独立した「科目」が存在しておらず、すべての教科がひとつになったものが教えられていること、第 4－6 学年においても「科学 (Science)」は独立した教科ではないこと、中学校段階 (7－9 学年) においては、「化学」の内容が最近取り入れられたこと、高等学校段階においては地学が最近導入されたことなどが挙げられた。また、近年では科学の概念とプロセスとの融合が図られようとしていることが述べられた。教員養成の動向としては、以前は、初等教員は中等学校修了者に対して 1 年程度の養成教育を修了したのに対して免許が付与されていたが、現在では学士レベルでないと免許が付与されなくなったこと、加えて 2005 年の法律の改正以降は、4 年の学士課程修了後、1－1.5 年の教職課程 (Pengembangan Professional Guru:PPG) を修了することを課せられるようになったことがトピックとして挙げられていた。

次に、ガフル氏は教員の現職研修についての動向を紹介した。インドネシアにおいては、1998 年から JICA の協力プロジェクト IMSTEP、SISTTEP が行われており、この下では 2001 年のパイロット活動を経て 2006 年から「授業研究」が行われている。現在では、ペダン市、スメダン区、バンツル区、パスルアン区、バンジャール市、ミナハサウタラ区で行われている。このプロジェクトの中では、単に教師だけが授業研究を行うだけでなく、校長やファシリテーターがどのように授業研究活動を維持していくか、また授業研究後どのような成果が得られたかについてのワークショップも行われており、授業研究活動を根付かせるための包括的な支援が行われていることが紹介された。

このセミナーは参加者は 20 名程度であったが、質疑応答も活発になされており一応の成功を収めたと言える。

(清水 欽也)